

## 「アベノミクス経済の今後と恩恵を受ける業界や関連企業 後編」

こんにちは、株式会社 ZUU の富田和成です。

前回の記事では、参議院選挙や東京オリンピック開催決定の結果等を踏まえてアベノミクスについても一度考え直してみました。

後半の今回は、より金融市場に近い内容として、アベノミクスに関する今後の主要な論点とアベノミクスが各業界に与える影響についてのまとめをお届けします。



### ○アベノミクス関連の今後の主要な論点

まず、今後のアベノミクスの主要な論点や重要イベントを振り返ってみましょう。

#### ●消費税の増税判断

昨年の民主党政権時に消費税の増税が決まり、2014年の4月から現行より3%上昇の8%、2015年10月より5%上昇の10%となることが予定されています。ただし、この増税は経済状況の好転を条件とされており、政府は10月を目処に最終判断をする方針です。

政府は増税の実現に向けて、大型の財政政策を打ち出すなど全力を尽くしているとされており、大方の見方では予定通り増税が決定されるだろうといわれています。ただ、6月発表の日銀短観が、特に中小企業を中心に芳しくなったことなどもあり、中小企業によりダメージが大きいといわれる消費税の増税に対しては慎重論も存在します。

まだ増税が決定されるのかについては、余談を許さないといえるでしょう。

増税が決定された場合、短期的なものではありますが、住宅などを含めて大型の買い物に対しての駆け込み需要が期待され、マーケットへの影響も予想されます。

#### ●TPP

一昨年以降、国論を二分した TPP(環太平洋経済連携協定)関連の議論ですが、10月 APEC 首脳会議(インドネシア)の後の12月末に、その妥結期限を控えています。

TPP については、業界や業者によってメリットもデメリットも様々です。

ただ、例えば TPP によってダメージを受けるといわれている農業分野でも、今後関税率の低下を商機と捉え、世界に対して日本の農産物の販売をしていくことも可能であり、国内農業全体の生産性の高まりに通じていく可能性も存在します。

こちららも、動向を注視する必要があるといえるでしょう。

## ○アベノミクス第3の矢の概要

前回の記事でもお伝えしましたが、アベノミクスの今後の主要な論点のなかでも、成長戦略である第3の矢に最も注目が集まっています。

以下、4月19日と5月17日に発表されたアベノミクスに成長戦略のおさらいをしたいと思います。

### ●「健康長寿型社会」から創造される成長産業

iPS細胞を代表とする再生医療・創薬の分野の“研究”では、日本は世界のトップにいます。しかし、“実用化”では大きく出遅れています。

このような現状の改善を目指し、心臓ペースメーカーなどを除いて民間の第三者機関の認証も認めることで審査のスピードアップを図るなど規制緩和を目指しています。

### ●世界に勝てる若者育成と大学改革

日本の大学もビジネスを生み出せる存在となるため、出資が可能となるような規制改革を進めます。

また、企業が求めている国際社会で活躍できる人材の育成を目指します。

### ●農業改革

農業が加工や販売なども手がけるいわゆる「6次産業化」を進め、現在1兆円の「6次産業化」市場の規模を10年間で10兆円に拡大していくことを目指します。また、農地の集積などで意欲ある担い手の農地利用を促し、生産性の向上を図ります。

### ●観光立国

年間の訪日者数1000万人を目指して、ビザ発給要件を緩和する考えです。

外国人観光客の誘致には、日本の文化やファッション、アニメなどを発信する放送コンテンツの海外展開が有効だとし、500億円規模の官民ファンド「クールジャパン推進機構」を発足させることも表明しました。

### ●設備投資の促進と特区の拡充

従来は主に地域が対象だった特区制度に加え、個別企業が求める規制緩和策を特例で認める「企業実証特例制度（仮称）」を設け、一定期間後、政府が有効と判断すれば、全国展開できるようにしていくそうです。

これらが、主なアベノミクスの第3の矢、成長戦略の内容になります。

## ○アベノミクスの関連分野

このような事柄に基づいて、下記のような分野がアベノミクスの関連分野として注目を集めています。

### ●医療機器・サービス関連

厚生労働省の調べによると、医療機器の2011年の生産金額は前年比5.5%増の1兆8084億円と2年連続で増加。少子高齢化を背景に国内の医療関連分野は成長市場です。政府も医療分野を戦略産業として育成する司令塔として2月に「健康・医療戦略室」を立ち上げました。また、医療関連機器やサービス輸出を目的に、官民共同の組織立ち上げも決定。医療機器メーカーを中心に18社が参加し、成長市場の新興国などでの販売を後押ししています。

#### 【関連企業】

- ・エムスリー(2413)：医師向けの情報サイトで全国の医師の約8割が会員
- ・シップヘルスケアホールディングス(3360)：病院の建て替えや新築開業時の経営コンサルティングを提供
- ・ホギメディカル(3593)：手術室運営に貢献する「オペラマスター」を展開  
引物を空気に触れさせずに処理する吸引器でシェアを伸ばす

### ●農業関連

現在行われる可能性がある農業改革は、輸出拡大に向けた農業の生産性の向上であり、そのためにはより農業機械や農薬を活用しての農業の効率化や、高品質な農作物を生産する為の品種改良や肥料の活用などが予想されます。

そのため、主な内容としましては、農業機械分野、農薬分野、肥料分野、種苗分野となどが注目を集めています。

#### 【関連企業】

- ・クボタ(6326)：農業機械の国内トップ企業です。
- ・北興化学工業(4992)：JA全農とのコネクションが強く国内農薬市場の10%を占めているようです。

### ●インフラ輸出関連

第3の矢である成長戦略の柱に掲げられているのがこの「インフラ輸出」です。主役となるのはゼネコンや重電などいわゆる“重厚長大”産業です。また、政府は、原油や液化天然ガス(LNG)の産出国向けに日本のインフラ技術の輸出をパッケージとして売り込んで燃料価格の引き下げにつなげることや、政府開発援助(ODA)とインフラ輸出を絡めることも検討しています。

#### 【関連企業】

- ・大林組(1802)：関西から首都圏で都市開発に積極的。大手の一角。海外は北米、アジア進出。  
不動産開発を強化
- ・五洋建設(1893)：海上土木首位。準大手級に躍進の原動力だった国内建築拡大路線を変更。  
海外大型受注に注力
- ・コマツ(6301)：建設機械で世界2位。中国などアジアで首位。IT活用強み。基幹部品は日本、  
組み立て現地化

以上、アベノミクス今後の論点と、注目を集めている業界や企業についてまとめました。参考となれば幸いです。

## <著者プロフィール>

**富田和成**

株式会社ZUU 代表取締役社長兼CEO

<http://diamond.jp/ud/lecturer/516281f51e2ffa4970000002>

大学在学中にソーシャルマーケティングにて起業。2006年に一橋大学を卒業後、野村証券株式会社に入社。支店営業にて同年代のトップセールスや会社史上最年少記録を樹立し、最年少で本社の超富裕層向けプライベートバンク部門に異動。その後シンガポールへの駐在とビジネススクールへの留学やタイへの駐在を経て、本店ウェルスマネジメント部で金融資産10億円以上の企業オーナー等への事業承継や資産運用・管理などのコンサルティングを担当。

2013年3月に野村証券を退職し、2013年4月株式会社ZUUを設立、現在に至る。

◇今後のメルマガをより良い物とするために下記のページより皆様のお声をお聞かせ下さい。

<http://www.nichizei.com/fp-enquete.html>

### メルマガ執筆者募集のお知らせ

税理士FP実務研究会事務局では、FP実務に関する様々なテーマでメルマガの執筆をしていただける方を募集中です。分野・テーマ等は自由です。最近の相談事例や得意分野など、ぜひ寄稿ください。執筆を希望される方は、税理士FP実務研究会事務局【(株)日税ビジネスサービス 総合企画部】までご連絡ください。TEL 03-3340-4488